

カナダ日本語教育振興会 2008 年度年次大会
CAJLE Annual Conference 2008

変わりゆく日本語と日本語教育の今
The Japanese Language in Transition and Its Education at Present

於：国際交流基金トロント文化センター
8月15日～17日

—後援—

国際交流基金

国際交流基金トロント日本文化センター
在トロント日本国総領事館

【基調講演】

「変わりゆく日本語と日本語教育の今」

嘉数勝美（国際交流基金日本語事業部長・日本語グループ長）

【教師研修Ⅰ】

「Japanese English: Language and Culture Contact」

James Stanlaw（イリノイ州立大学）

【教師研修Ⅱ】

「日本語教育における待遇表現の指導」

川口義一（早稲田大学）

【パネル・ディスカッションⅠ】

「変わりゆく日本語と日本語教育の今」

嘉数勝美、鈴木睦（大阪大学）、川口義一、室屋春光（国際交流基金）

【パネル・ディスカッションⅡ】

「日本語コミュニケーション教育における演劇の持つ可能性を探る」

野呂博子（ビクトリア大学）、橋本慎吾（岐阜大学）、

平田オリザ（劇作家・演出家・大阪大学）

【特別講演】

平田オリザ（国際交流基金、国際表現言語学会との共催）

【口頭発表】

1. 初級最終段階での日本語アンケートプロジェクトの報告：教師の意図と学生の認識
ショー出口香（パーデュー大学）

2. 教室外での実践を視野に入れたコースデザイン：インタビュープロジェクトの試み
有森丈太郎（トロント大学）
3. サテライトテレビを利用した個別学習コースの一例—自律・生涯学習能力を促進させるための学習支援
藤岡典子（シンシナティ大学）
4. 遠隔の異文化間コミュニケーションと学びあう共同体に関する考察
尹智鉉（早稲田大学）
5. 現代日本語話者のクレルとモラウの使い分け：機能言語学的視点からの一考察
リグス秀美（ソーカ・ユニバーシティ・オブ・アメリカ）
6. 「傾き」のある疑問文—会話データからの考察—
池田佳子（名古屋大学大学院）
7. 間主観化のメカニズム：「～てしまう」の分析
安部さやか（ヴァッサー大学）
8. 「だ」はどう教えるべきか：「だ」の機能再考
筒井通雄（ワシントン大学）
9. 上級日本語学習者に対するシャドーイングの有効性と問題点—6人のケーススタディ—
ハウ博美、赤城永里子、吉田愛子（大阪大学シャドーイング研究会）
10. これからの日本語の音声教育の一案：発音の自己評価とシャドーイング
柴田智子（プリンストン大学）
11. 日本語学習者による「移動」の表現に関する一考察
虎谷紀世子（ヨーク大学）
12. アジア諸国における学習者と母語話者・非母語話者日本語教員との関係からみた日本語教師の「実践能力」分析
高木裕子（実践女子大学）、古内綾子（拓殖大学留学生別科）、佐藤綾（大邱韓医大学校）
13. 初級クラスにおける日本語と英語の字幕付きビデオを利用した授業の試み
徳増ゆかり（プリンストン大学）
14. 映画を使った授業の試み—中上級の学生を対象に—
小室リー郁子（トロント大学）
15. アメリカ大学生日本語学習者の動機と学習ビィリーフにおける社会文化的考察
楠正子（カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校）
16. CLT (Communicative Language Teaching) 観点からのライティング比較研究
相津頼子・佐々木真実（カールトン大学）

17. ビジネス日本語担当者に求められる役割—求められるものはビジネス経験か—
栗飯原志宣（大阪大学大学院生）
18. 言語、文化学習に重点を置いたビジネス日本語の指導：教材開発の一例
高見智子（ペンシルベニア大学）
19. 英語圏向け日本語中級後期用教科書『とびら』開発の目的・課題・展望
筒井通雄（ワシントン大学）、岡まゆみ（ミシガン大学）
20. 非漢字圏日本語学習者の漢字未知語の意味推測ストラテジーに関する一考察—中級学習者の
ケーススタディより
桑原陽子（福井大学留学生センター）
21. 日本語中上級学習者の物語を聞く際の聞き手としての行動の分析
半沢千絵美（アイオワ大学大学院生）
22. 「断り」という言語行動に与える留学経験の影響—広東語を母語とする日本語学習者を対象
として
吉川貴子（大阪大学大学院生）